

史資料は 加工して ナンボ

デジタルアーカイブ学会シンポジウム
「博物館デジタルアーカイブの現在地」
(第2回：利活用編)

2025年1月30日 梅林秀行

1



梅林秀行

京都高低差崖会

京都ノートルダム女子大学非常勤講師

関心分野
都市史・景観史

2



1. 2015年1月「京都・御土居編」
2. 2015年6月「奈良編」
3. 2016年4月「京都・嵐山編」
4. 2016年5月「京都・伏見編」
5. 2017年4月「京都・祇園編」
6. 2018年4月「京都・銀閣寺編」
7. 2018年4月「京都・東山編」
8. 2019年7月「京都・西陣編」



2017年 京都・祇園編の二コマ

3



フィールドワーク資料：祇園

4



5

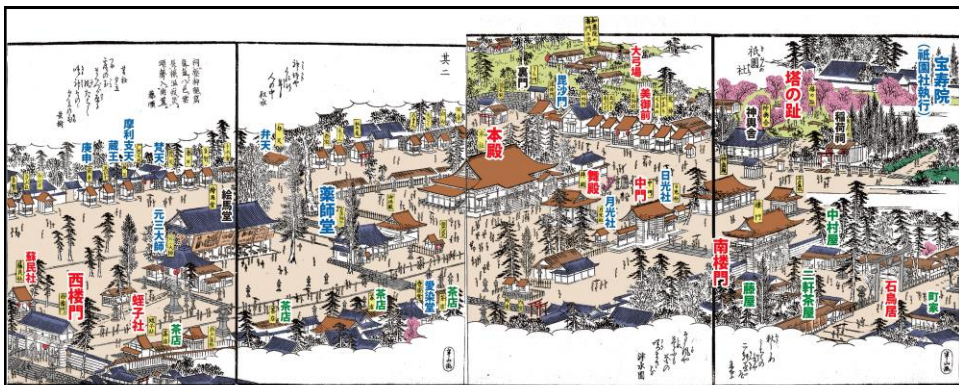


図1 幕末の祇園社『花洛名勝図絵』元治元年（1864）
〔国際日本文化研究センターを着色加筆〕

史資料の観察点

1. 境内植生：社叢の有無、桜の偏在
2. 建築屋根材の違い：板葺き、瓦葺き

→ 「現景観」の再検討：景観の構築性（歴史性）評価

→ 「京都観」の脱構築：本質主義的語りへの疑義

6

図版作成ワークフロー



『花洛名勝図絵』 元治元年（1864）

7

国際日本文化研究センター

平安京都名所図会データベース



本データベースは近代以前の平安・京都の風俗を主に絵図を通して研究するために、国際日本文化研究センターが所蔵する江戸時代から明治期にかけての平安・京都を描いた「名所図会」の高精細画像データベースである。平成15年現在、当センターが所蔵する平安・京都に関する名所図会は、『都名所図会』『拾遺都名所図会』『都林泉名勝図会』『花洛名勝図会』『花洛細見図』『都名所画譜』『京都名所順覧記』『京都名所撮影』の八点であるが、これらに基づき順次データベースを構築するとともに、今後資料の層の充実をはかっていく予定である。

50音検索

利用の方法

日文研のホームページ

[『都名所図会』](#) [『拾遺都名所図会』](#) [『都林泉名勝図会』](#) [『花洛名勝図会』](#) [『花洛細見図』](#) [『都名所画譜』](#) [『京都名所順覧記』](#) [『京都名所撮影』](#)

平安京都名所図会データベース 国際日本文化研究センター

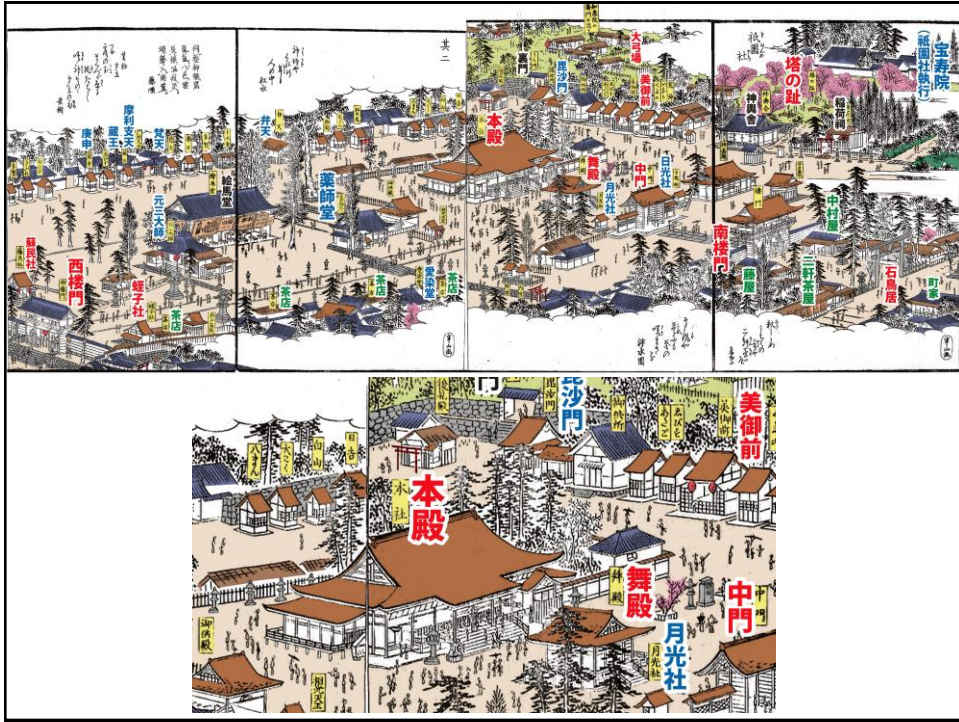
8



9

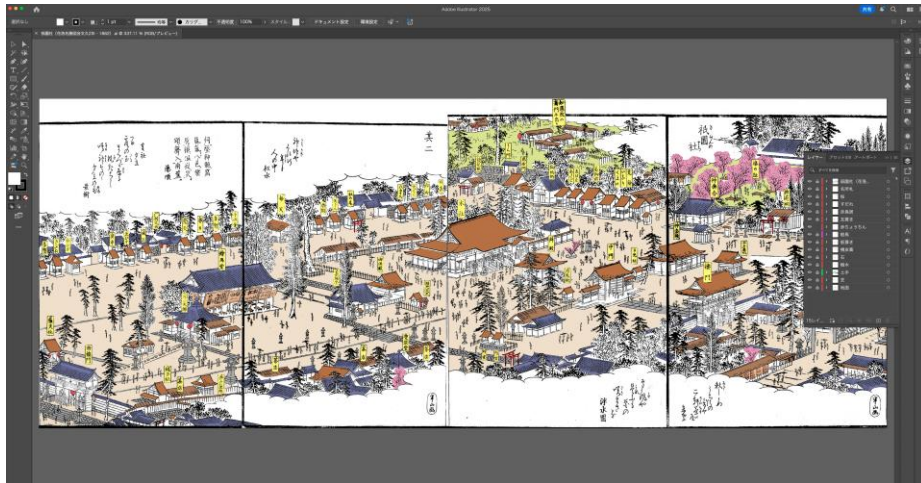


10



13

図版作成ワークフロー

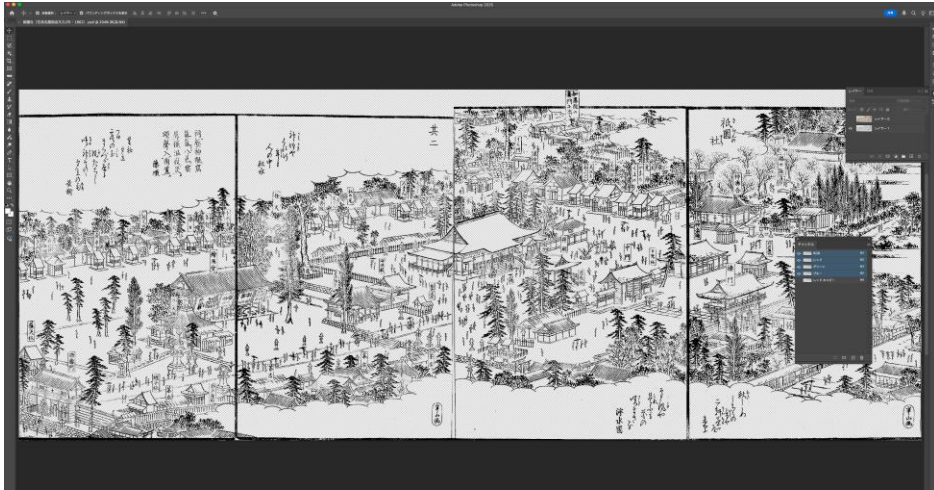


項目ごとに着色作業（描線を最上部に）

Adobe Illustrator使用

14

図版作成ワークフロー



描線を抽出、背景透明化：チャンネル分解
Adobe Photoshop使用

15

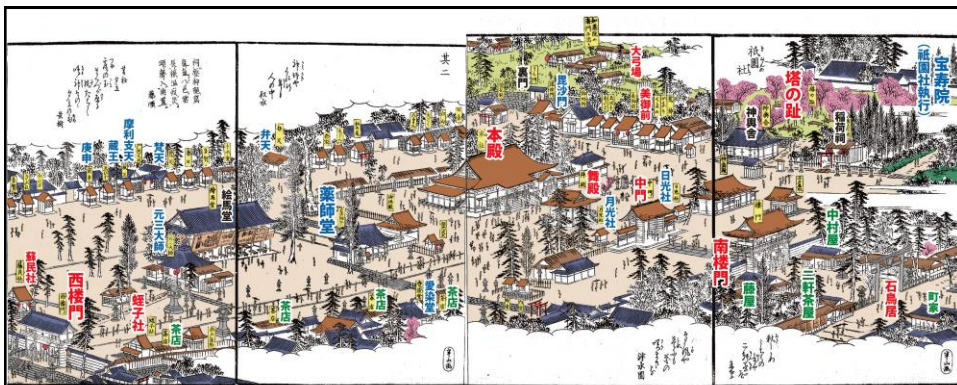


図1 幕末の祇園社『花洛名勝図絵』元治元年（1864）
〔国際日本文化研究センターを着色加筆〕

史資料の観察
すなわち、データ加工

16



フィールドワーク資料：平安神宮

17

図1 第四回内閣勲業博覧会場
『原野名所案内』明治28年(1895) (国立国会図書館デジタルコレクションを着色複製)

図2「平安神宮御鎮座」『京都日出新聞』明治28年(1895)3月15日付
[京都府立図書館マイクログラフィムを着色]

1. 視認性向上
2. 所見の明示

加工なくして活用なし

18

1601 慶長6年 (1601)、御土屋稲置口の領口：『越前社記 第二十三』享保6年 (1723) 11月8日条

個人用データベース：史料カード
Evernote使用

19

1780 越前御旅所・四條道場『郡名所図会』安永9年 (1780) [国際日本文化研究センター]

個人用データベース：史料カード
Evernote使用

20

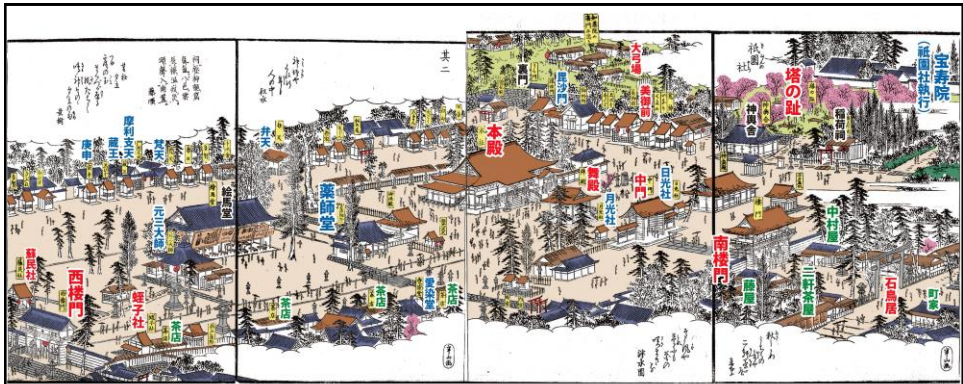
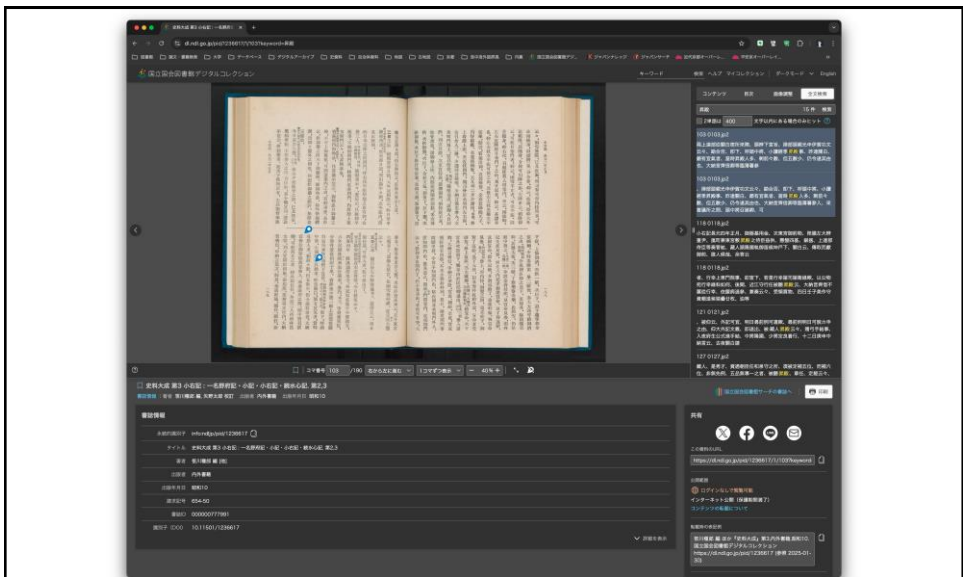


図1 幕末の祇園社『花洛名勝図絵』元治元年（1864）
 【国際日本文化研究センターを着色加筆】

近年の成果

利用規約の変化：オープン化の趨勢

21



国立国会図書館（NDL）デジタルコレクション

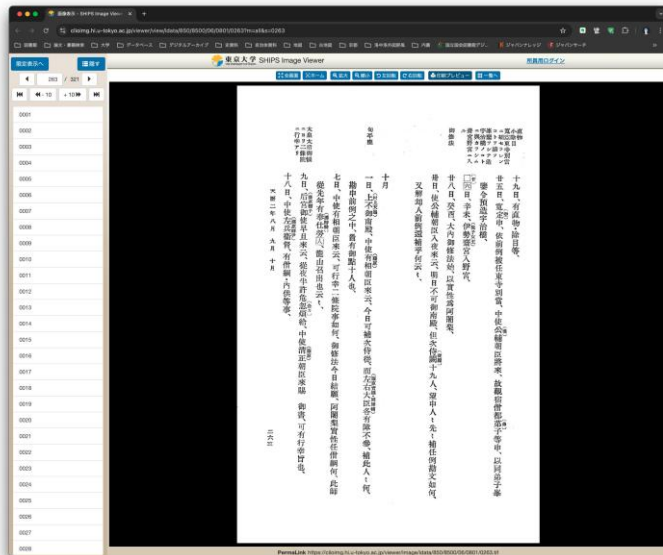
オープン化の好例

22



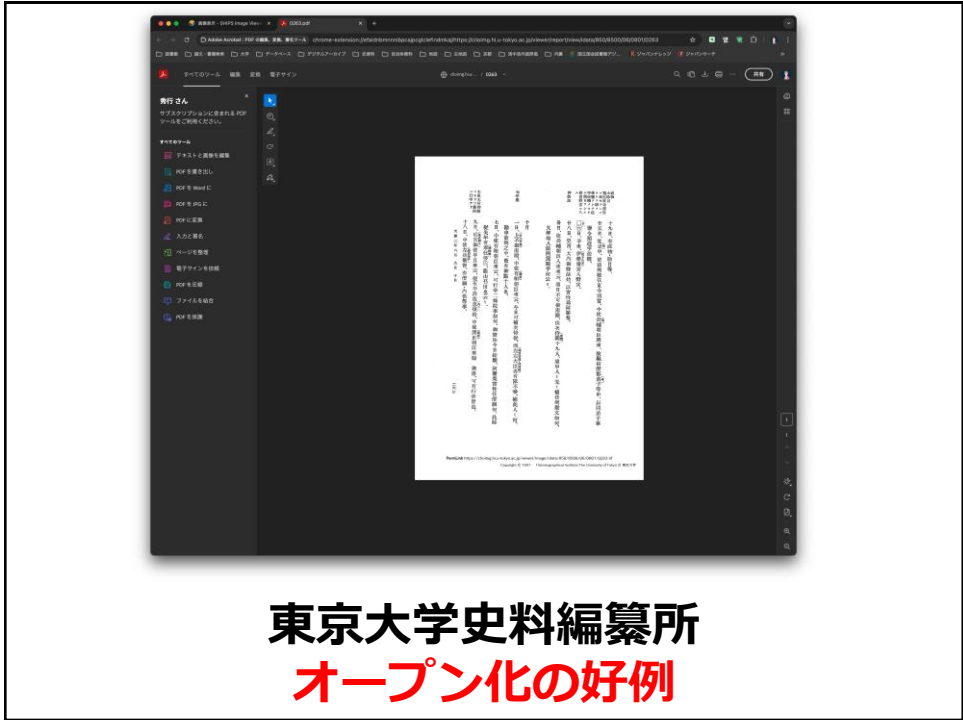
**国立国会図書館（NDL）デジタルコレクション
高解像度データのダウンロード可能
5304x3762 1.5MB**

23

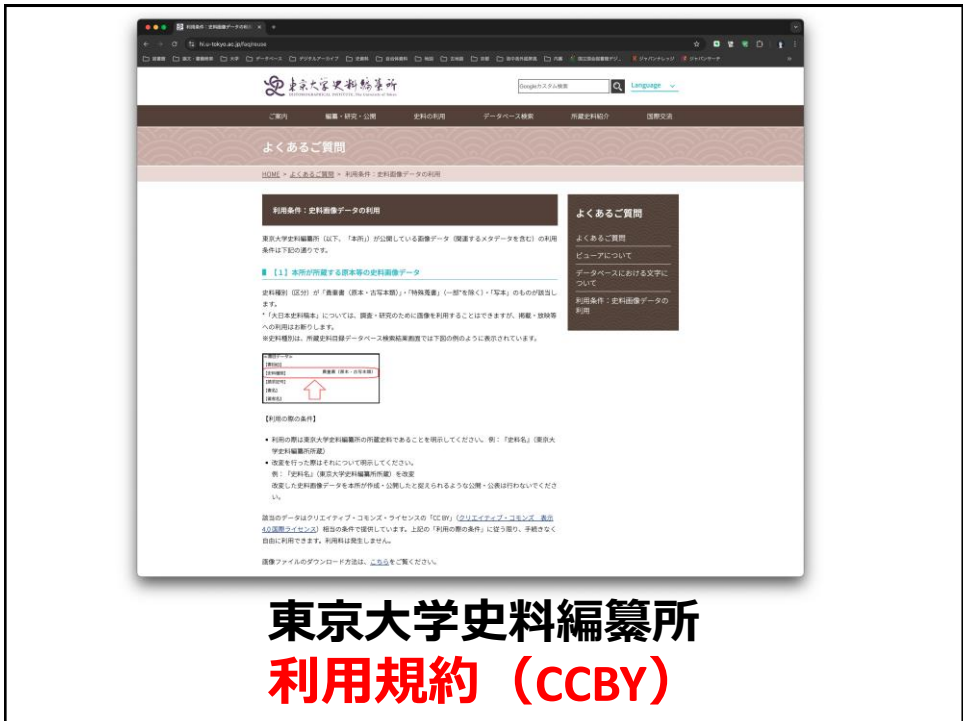


**東京大学史料編纂所
オープン化の好例**

24



25



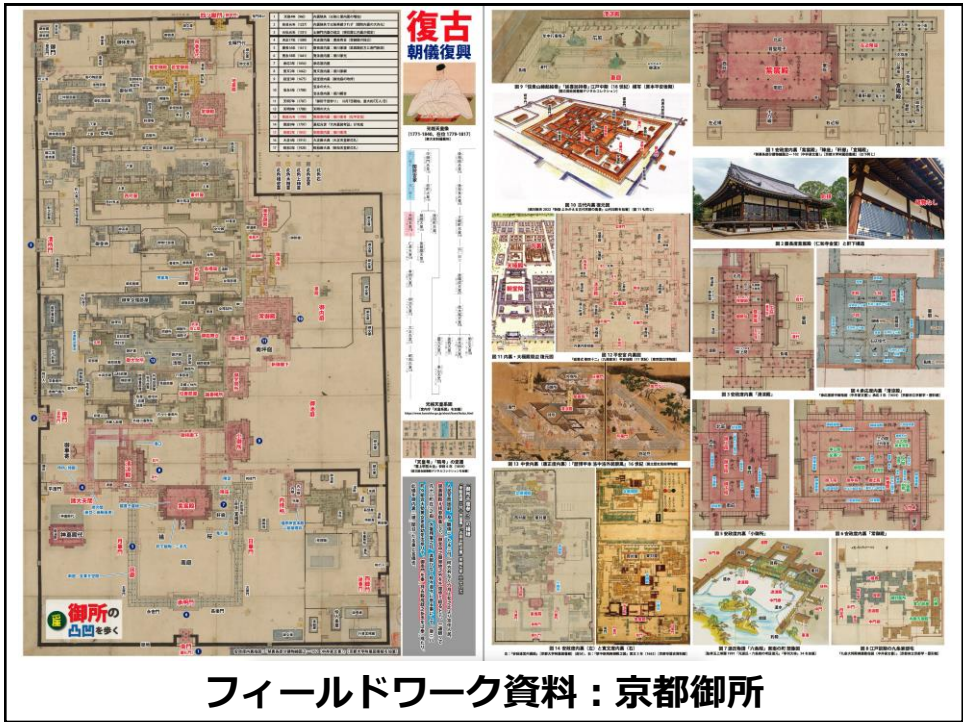
26

個人用データベース：史料カード
東京大学史料編纂所
古記録フルテキストデータベース

27

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ
オープン化の好例

28



31



32

とある国立大学図書館デジタルアーカイブ

成果と課題

1. デジタルアーカイブ**公開自体は進展**
2. 利用規約に未だ**クローズな条件多い**
3. 高解像度データの**ダウンロード不可**が難点

→ 「**閲覧**」**主体**が依然多数

→ **ローカル環境**の活用（**データ加工**）は想定外!?

→ ユーザーの**自己決定権**を確保しよう！

※ **権利擁護**の視点をぜひ